令和8年度　全国学力・学習状況調査結果の分析 【第3学年（第9学年）】

（様式4）

北区立都の北学園（後期課程）

国語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
平均正答率は東京都を1.0ポイント、全国を5.1ポイント上回った。学習指導要領の内容別の比較では、「A　話すこと・聞くこと」の項目のみ東京都を3.1ポイント下回った。問題別の集計結果では、「話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」問題の正答率が東京都に対して10.3ポイント、全国に対して6.3ポイント低い結果となった。一方で、記述式の正答率は全国を10.9ポイント上回り、擬態語の効果を書く問題では全国を17.5ポイント上回った。	話合いの流れの中で発言意図や役割を把握するための主体的な聞き取りに課題がある。 また、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を抜き出す問題では、無解答率が21.8%と東京都を5.1ポイント上回った。同様に他の記述問題でも無解答率が東京都より高かった。記述の力は高い一方で、書き出せない生徒が一定数いると思われる。さらに、語義と本文中の表現を結びつけて捉える力にも課題がある。	他の人の話し合いを観察して発言ごとに気付いたことをメモする練習を設け、流れの中で発言を捉え、その意図をつかむことができるようにする。 記述問題については、記述条件をチェックし書き出しの型に当てはめて書き出す活動を取り入れ、まずは書き始める習慣をつけて無解答の減少を図る。あわせて、語義を調べ、同じ内容の表現に言い換える活動を取り入れ、語句の理解を深めさせる。

数学

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
平均正答率は東京都を3ポイント、全国を8ポイント上回った。「A　数と式」の項目以外は東京都・全国を上回っており、特に「B　図形」の項目では東京都を8.8ポイント、全国を17ポイント上回った。 問題別集計結果からも、「A　数と式」に関わる問題の多くで全国平均を下回っていた。「B　図形」に関する問題は評価の観点問わず、高い正答率を示しており、証明問題でさらにポイントを伸ばしていた。	東京都の平均を下回った問題は2つあった。 ①1つは文章を読みながら決まった手順で3けたの自然数を作る問題であった。問題文を読み、手順の意味を理解しているかどうか、読解力に課題があると考えられる。 ②1つは「同類項」や「累積度数」など数学用語がわからず、何をしたらよいかわからず不正解になったと考えられる。その問題は無回答数も東京都の平均よりも高くなっている。	①授業の中でも今回の問題のような、粘り強く文章を読み、解答を導く問題に取り組み、読解問題を解く意識を高めていく。また、協働学習を生かし、教え合うことで読解問題が苦手な意識を減らしていく。 ②普段の授業の中で数学用語を繰り返し使用し、復習することで言葉の意味を定着させていく。これから入試演習になり、3年間の復習する機会は多々あるので、習熟度に合わせて繰り返し確認していく。

英語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
4技能の標準偏差は東京都を0.2ポイント、全国を0.1ポイント上回った。4技能別に見ても全ての技能において平均正答数集計値が両者を上回っており、中でも「読むこと・書くこと」においては両者を0.3上回る幅が大きかった。ただし、問題別に確認すると「話すこと」の人に依頼をする表現の問題の正答率が東京都に対して10.6ポイント、全国に対して1.6ポイント低い結果となった。また、「自分の好きな人」や「自分のまちを訪れるのにおすすめの季節」等のまとまりのある内容を話す問題の正答率は低い。	最も大きな課題は「相手の行動を促す」という言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能であったので「即興のやりとり」の力を身に付けさせたい。 また、特定のテーマについて事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書いたり、話したりすることに課題が見られる。特にそのような問題において、生徒の無回答率の高さが課題である。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確に設定し、ペアやグループで即興でやり取りをした後、情報を付け加えて話したり相手の発話に関連する質問をしたり、教師のフィードバックの後に再度、やり取りをさせることで、即興力を伸ばしていく。 まとまりある文章を書いたり話したりするために、まとまりのある文章を読む活動を充実させ、英文の表現を参考に書くことができるようにする。また、書く前にテーマについてメモさせ、表現する内容を用意させることで、自分の考えを表現できるよう支援する。